

R4 年度 第 5 回 IYEO 幹事会 議事録

日時：2022 年 11 月 12 日(土)9:30-12:00

会場：Zoom オンライン

出席	長末会長、小島副会長(事業)、佐々木副会長(都道府県)、白木副会長(社会貢献・財政)、高橋(北海道・東北 B)、岸田(関東 B)、日南田(北信越 B)、高木(東海 B)(委)、亀谷(関西 B)、藪田(四国 B)、有吉(九州 B)、工藤事務局長、大野事務局次長、長谷川(戦略)、田島(東ア)、高橋(世界)、小田(中国)、宮城(韓国)、滝川(育成)、伊勢(社会貢献)、小柳(財政)、吉村(社会貢献・財政)、横倉(広報)
欠席 (委)委任状あり	本田副会長(戦略)(委)、佐藤(中国 B)(委)、池田事務局次長(委)、樋口(都道府県)(委)、高野(コア)(委)、大河原顧問、白鳥参与
議長	小田(中国)
議事録	池田事務局次長
オブザーバー※	吉岡監査役、野村監査役、高下顧問、伊丹アドバイザー
成立条件	28(出席 23+委任状 5)/28 で成立。

※議決権なし

【1-a~d】戦略 報告

<p>a. キャリアデザインセミナー 発言者：長谷川戦略担当幹事 5 月開始から 11 月で 5 回目。14 名の活動に伴走。各県会長などに協力いただきながら 10 名以上が同窓会実行委員などに参加。Seminar 6：2 月 25 日(土)に成果発表。</p> <p>b. オンボーディング 発言者：長谷川戦略担当幹事 ・ゆるーくおしゃべりする会の企画 主旨：IYEO との接点を増やすことを目的に今年度参加者向けのオンライン交流会を企画。 (壮行会、お疲れ様会) OB・OG への声かけ：社会貢献チーム・未来創造会議、都道府県チーム、事業チームと連携するきっかけになった。 参加内訳 今年度参加者 6 名、IYEO 会員 11 名。 成果と課題：形式ばらずに IYEO 活動や事業の心構えなど話すことができた。参加者集めが今後の課題。 ・事前研修・事後研修での説明：IYEO の概要と事後活動研修についての説明を実施。 まだまだ入会者が少ないので今後会員との接点をどこまで増やしていけるのかが入会者確保のポイントだと考える。</p> <p>c. IYEO Learning Program 発言者：長谷川戦略担当幹事 Learning Program(第 3 回)報告、Neo 告知</p> <p>d. 活動組織とマッチング支援 発言者：大野事務局次長 ・「開発フェーズ 2：活動を担える人を活動組織がスカウトしていく仕組みづくり」について説明 ・LinkedIn の活用について説明 ・Career catalogue の活用：活動実態を周知するために各活動体で SNS での発信をしてほしい。</p>
--

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

<p>Linkedin 登録について：12 月推進会議を経て、会員に一斉通知。(担当：大野)</p> <p>Career Catalogue について：活動実態を周知するために各活動体で SNS での発信をしてほしい。</p>

質問・意見(要約・抜粋)

<p>・特になし</p>

【1-e】戦略 議決

e. 情報発信ガイドライン 発言者：工藤事務局長、伊丹アドバイザー

情報発信ガイドライン案についての議決

経緯：前回幹事会で規定の整備を行う方向で可決、その後伊丹アドバイザーの協力を得ながら戦略チームと事務局で整備、提案に至る。

※幹事会議決案件につき推進会議での議決は不要。

議決結果・決定事項

・ガイドライン(案)の内容を可決。(賛成 19 件、委任状 5 件)

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

・運用に関してはもう一度戦略チーム MTG を開催する。承認～公開を今後どんなスキームで運用するか決まり次第報告する。(横倉)

質問・意見 (要約・抜粋)

・チームごとの役割に応じた適切な権限を付与したらいいと思う。広報担当副会長いないのであれば戦略もしくは事務局が代行すればいいのではないかと思う。(白木)

【2】都道府県 報告

a. 年間計画進捗共有、各種報告 発言者：佐々木副会長

- ・井戸端会議の実施、情報発信の検討など
- ・今年度合格者への声掛け状況など

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

・12月推進会議にて1月井戸端会議の告知を行う。(佐々木)
・運営委員について、希望する活動を尊重しつつ、都道府県チームとしても2月の推進会議に向けてあり方を提案できるように話を進めていきたい。(佐々木)

質問・意見 (要約・抜粋)

・合格者への案内について、返信がない、というのはメールの返信がないということか？(長末)
→メールの返信がない。まずはメールで連絡を取ってからLINEなどで繋がる。(佐々木)

・北信越でも6名の合格者があったが、半分以上はメールの返信がない状況で、アンケートに協力できなかったという県もあった。メール以外にも電話などコンタクトできるツールを検討してほしい。(日南田)
→同期同士はLINEやインスタ繋がっていると思うので、都道府県にこだわらず事業や社会貢献などからつながりを作る方法もあるのでは。(伊丹)

・先日、ブロックイベント運営の関係で栃木県IYEOの皆様と対面でお話したが、「内閣府事業の選考に都道府県が入らない(=直接内閣府が選考)ようになってから、新規参加青年の帰属意識が都道府県にない場合=県代表の意識がない場合が多いんだと思います」という懸念の意見を聞いた。(前から栃木県以外にも挙がっている意見ではあったが、気になる)(工藤)

・返信が得られない問題について、どのようなメールを送った結果なのか、内容を複数名でレビューしてはどうか。(大野)
→どんな内容を送ったかまでは精査する必要はないのではと思う。(佐々木)

・ラインのオープンチャットとか作れたらよいのかもしれない。(岸田)

・壮行会参加者は全員Instagramで繋がった。(横倉)

・内閣府事業担当者ともSNSで個人的につながって、本年度参加者情報のやり取りができつつあるので、これを他の都道府県に広げる方法を引き続き模索中。(横倉)

・北海道では表敬訪問も予定しているとのことで、そういう筋道までつけられれば反応しやすい、反応しなければいけないという感覚まで持っていけるのかなと取りまとめして思った。(高橋直)

・若者への呼びかけ内容は若者の目でも見てもらうと良いですね。我々も若者ではなくなってきましたので、高齢者と若者では感性のずれ違いなど多々あるはず。(大野)

【6】事業 報告

年間計画進捗共有、各種報告 発言者：小島副会長

同窓会企画の進捗

- ・東ア(12月)：100名を目標に計画。
SSEAYP International Disaster Relief Fundについて：フィリピン台風22号への1000ドルの支援を拠出。
秋の叙勲：タイのチャイさん。
- ・韓国：日韓交互に開催していたが、韓国側のOBOG組織がなく年々運営が難しく、日韓合同での開催を検討。2023年夏ごろ開催予定。
- ・育成：コアと合同でマネジメントフォーラム運営メンバーを母体に12月にプチ同窓会を開催。(ハイブリッド)
- ・世界船：10月実施。150人くらい参加。参加者のなかには来年企画したいというメンバーも。
秋の叙勲：インドのラビさん。(会議後追記)
- ・中国：1月実施。11月23日に予定していた日中国交正常化記念のイベントは延期。延期後は対面で実施を予定。

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

- ・会長を交え、事業担当と同窓会の位置づけなど今後に向けて話し合いをする予定。(11月13日実施)

質問・意見 (要約・抜粋)

- ・韓国の事故に事業参加関係者がいないかどうか心配していた。(白木)
→先日韓国側の中心メンバーと話をしましたが特に話は出ていなかったため、おそらく大丈夫だとは思ふ。宮城)
- ・SWY Connect 凄く楽しかった。企画に感謝。対面での集まり、行事が徐々に増えてきて嬉しい。(工藤)
- ・SWY コネクトの報告はすでにIYEOブログに掲載。(横倉)
https://www.iyeo.or.jp/blog/2022/11/08/8687/?fbclid=IwAR1EvTXFH4vCi-ZVplct79728rd5N0m15TqzC1L_hMLH1nDBRxcJ9gWBbPA
- ・SWY Connect でいろいろな方にお会いできて、楽しく、またとても有意義な時間となった。参加者は新しい方が多かった。幹事などが入って活動に引き込むチャンスだと思った。事業から都道府県出身者のつながりを見つける機会にもなる。(日南田)
- ・ご参加頂いた皆さんに感謝。今年度参加青年向けに壮行会等も実施する予定なので、是非引き続きコネクトしていけると嬉しい。(高橋香)
- ・同窓会に参加したSWYメンバーから楽しかったと聞いている。今回は参加できなかったが、参加できるときは是非とも思っている。(藪田)
- ・今年度事業参加者向けのイベントのOG/OB募集の際に、事業担当幹事の皆さんから同窓会実行委員の皆さんに声がけいただき、大変助かった。オンボーディングについても引き続き連携したい。(長谷川)
- ・NPO対話会(滝川)
<https://www.facebook.com/events/517802456882827/?ref=newsfeed>
- ・同窓会の開催に向けてまずは楽しい会になるように準備を頑張ってもらいたい。来年度は事業参加者とOBOGの皆さんで実行委員を継続して運営していけるように意識した内容とつながりづくりを考えて実施してほしい。同窓会の中から新しい事業が生まれるような仕組みづくりを手掛けてほしい。(長末)
- 会長を交え、事業担当と話し合いを行うこととする。(小島)
- ・事業別同窓会から都道府県や社会貢献にスムーズに繋がると良い。元々は都道府県から事業に送

り出している青年たちがたくさんいると思うのでせめて、その子たちが都市（特に首都圏）に出て行ってしまいう課題もあるため。（白木）

【3-a, b】事務局 報告

- a. メーリングリスト(index-all 新設) 発言者：工藤事務局長
航空機全事業を対象にした air-net を廃止し、育成事業のメーリングリストを新設。
Index-all@iyeo.or.jp
- b. はがき発送による、連絡先登録強化について 発言者：工藤事務局長
1990 年以前の参加者に連絡先登録はがき送付。印刷会社からは 11 月 25 日までに発送される。（事務局）

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・1990 年以前の参加者に連絡先登録はがき送付。印刷会社からは 11 月 25 日までに発送される。（事務局）

質問・意見（要約・抜粋）

特になし

【3-c】事務局 議論

幹事会構成員の解任規定について 発言者：工藤事務局長、長末会長
本人の都合による辞任、本人の都合以外に対応できるように解任を作成。

議決結果・決定事項

- ・幹事会構成員の退任規定案について、提案内容の方向性で進めることとして可決。（賛成 20 件＋委任状 5 件）
- ※会員の退会規定：見直しを図り、推進会議への提案はしない。

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・特になし

質問・意見（要約・抜粋）

- ・【コメント】ブロック幹事の場合は、ブロックを構成する各都道府県会長の意見も反映できると良い。（幹事会の 2/3 に追加して）（横倉）※ブロック幹事はブロック内都道府県会長の推薦によるため。
- ・死亡した場合以外の辞任理由がすぐに思いつかない。会員の退会については以前高下会長時代に議論したものと整合しているかが気になった。横倉幹事の指摘(各都道府県会長の意見も反映)については、推進会議の 4 分の 3 以上の同意というところで都道府県の意見を聞くこともできる、と理解した。後任をどうするのか、後任が決まるまで、誰が代行するかという問題はある。空席のままがいいのか、空席の期間が長くなるとそのぶん空白の期間ができてしまう。副会長が担保するというのか、ほかの幹事がフォローするのか、会長が指名するのかわろいろなパターンがある。（伊丹）
→不在の期間中の代行を会長が指名する、というやり方が自由度がある。実態としては代行を確保してから辞任、というイメージをしている。（長末）
- ・会員の退会規定については以前伊丹さんに作り上げてもらった内容が反映されていないので推進会議にあげない方がよい。都道府県の運営が破綻する要因となる無関心層をどうするか、という大きなポイントが含まれていない。退会したい人はそもそも届け出をしない。（大野）
→会員の方は見直しを図り、議決は幹事会構成員のみとして議決したい。（長末）
→今日のところでは議決でなく議論としたい。（工藤）
→コア幹事の現状はどうか？（長末）
→今年度はプチ同窓会として解決を図ったが、来年度以降本格的にどう運営していくのか、事業自体

がないので幹事を置かないと今後崩壊しかねない。(滝川)

→コア事業は都道府県の主力も多いので、自分たちの存在意義が薄れる可能性もあるので立て直しをした方がよい。(長末)

→コア組織の在り方を考えた場合、事業に職業研修の目的で参加した方も多いのでほかの事業と同じように交流する同窓会しよう、では集まらない。出身者組織の在り方を考えるために事業出身者を集めて意見を聞くための人集めから着手したらよいと思う。(大野)

→推進センターの意向もあるので、幹事の件と別の形で考えた方がよいのかもしれない。(滝川)

→NPOMFを復活させる構想だったと思うが、そういった活動がないと再起は難しいのでは。(長末)

→新しくNPOMFのような活動ができた場合に参加したいというメンバーをつなぎ留めている状況。どう今後に生かすのか近々の課題。(滝川)

→社会貢献チームでもコアの知見を生かしたグループが立ち上がったが、事業全体の動きもあるのでいったん様子見しているが動きがあればメンバーに声掛けはできる。(伊丹)

→今日議決をしない理由は？(長末)

→リバイバルプランが反映されていないことと、アドバイザーのチェックなく素案をあげたのでこのまま決めてよいものか、という心配もあった。方向性の議決をとるというやり方ではどうか。(工藤)

・退任規定はいいが、どのように実行されるのか。基準は。(田島)

→何度も連絡をしても改善されない場合に解任、としたい。(長末)

→自分の場合も前任の方が連絡取れず、後任を引き受けた経緯がある。今後幹事都道府県会長の連絡が取れない場合も想定して議論を進めていただきたい。(亀谷)

・解任について、推進会議で4分の3、幹事会で3分の2と、差がある意図はなにか？(高下)

・北信越Bでも5県中2県がコア出身。福井県は2代続けてコア出身。富山県の会長、市議会議員の一人もコア。組織の受け皿が大切。(日南田)

・私も個人的な意見としては、細かく決めない方がいいと思う。ケースバイケースだと思うが、そもそもの規定がないと対応できないことを想定しての今回の議案だと認識している。(白木)

・同意です。規定にあまり細かく書き込まず、運用を幹事会で決めておく形にしておくのが良いのだろうと思う。(高下)

【3-f】事務局 報告

第81回IYEO全国推進会議の開催について 発表者：工藤事務局長

IYEOのみで開催。幹事会の議論をベースに推進会議にあげていきたい。

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

・特になし。

質問・意見 (要約・抜粋)

・特になし。

【4・5】社会貢献・財政 報告

a. 年間計画進捗状況報告 発表者：白木 社会貢献担当副会長

- ・社会貢献&財政チームで現在議論されていることについて共有。
- ・社会貢献チームが事業チームや都道府県と協働できるポイントを探っていきたい。
- ・社会貢献チームの活動を本格的に始動していくために、運営体制をどのように作っていくか。
- ・世界船新プログラムへの協力。

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

・チャレンジファンドの見直し。主旨・目的を明確化し、要件や支援、審査の在り方を見直す。(今年度課題抽出、来年度抜本的改革を図りたい。)

・社会貢献チームの運営体制の整備(来年度始動に向けて)リソース不足、メンバーの拡充が急務。下半期に段階的に募集、来年度本格募集開始。

・ファンドレイジングについて：生前贈与の申し出に対し、社会貢献・財政としての方向性を示す。

質問・意見（要約・抜粋）

- ・生前贈与や遺贈寄付は遺族のトラブルになりかねないセンシティブな問題もある。IYEOとしてどのように取り扱うかガイドラインを決めていこうという話になっている。（工藤）
→社会貢献チームの予算を使って専門家に相談にはいてもらうことを検討している。（白木）
- ・ほかの団体でも寄付があった場合は「〇〇基金」と名前を付けて運用するケースもある。（亀谷）
→幅広い世代のIYEOの活動や思いを汲みながら次の世代にどう循環していくか、社会貢献と財政で取り組んでいきたい。（白木）
→気持ちを持った先輩方どう声をかけていくか、進め方が難しいところ。申し出のあった方どう声掛けしていくか、タイミングが遅れないように呼び水になるような進め方ができれば。（高下）
→先輩方とのつながりもおありだと思うので高下前会長や顧問の方々にもご協力いただきたい。（白木）
- ・社会貢献チームで活動する中で感じたことだが、イベントなどを行う際にファンドを活用しようという話が上がってこないのが残念。今後対面の活動が広がった場合の費用面の不安もあるので活用のしやすさが改善され、選択肢として伝わることを期待したい。（長谷川）
→チャレンジファンドを活用しやすい枠組みにするなど、活動奨励金などのように気軽に使える工夫もしていきたい。チャレンジ・育成・フラッグシップの3つのファンドのつながりも連動していない気がする。（白木）
→使ってもらえていないのが現実なので、金額、期間、抜本的な見直しには賛成。ファンドを活用することで活動を知ってもらうための周知にもつながるので。（長末）
- ・若者たちにいかにIYEOの趣旨に賛同してもらって活動に参加してもらうかが重要で、活動する際の原因として多くの若者が活用できる仕組みであってほしい。（亀谷）
- ・将来的に活動を始める一歩みみたいなガイドブックがあるとよい。（長末）
- ・スタンフォードなどで、寄付者の名前をつけるケースもある。（工藤）
- ・個人的には、チャレンジファンドが、若手会員が本当にチャレンジして、成長へのステップになるようなファンドになるといいなと思っている。（伊勢）
- ・チャレンジファンドを使ってみたらかなり手続や書類の提出が面倒だった。他の県からも書類が大変なのでもう使わないという声も聞いている。（岸田）
- ・書類の大変さは解消していきたい（申請側も、確認側も大変。）（工藤）
- ・広報の観点でもチャレンジファンドの宣伝や、寄付やサポーターの皆様へ活動報告ができる場を増やしていきたいと考えている。（横倉）
- ・チャレンジファンドの締め切り日の前、準備期間がとれる時期に、各チームなどに、チャレンジファンドの案内などを公式にしてみても良いのかなと思った。（HPにはあると思うが、これが準備できれば申請できる、という内容などまとめて）（有吉）
- ・IYEOのファンドなので、IYEOの活動に使ってもらい、IYEOの発展につなげるように、制度を最適化していきたい。（大野）
- ・助成金などは、通常、どこから出たお金なのか、チラシや活動の際に明記するのが一般的。規定を改訂する際に、基準や仕様を入れられたらよい。（伊勢）
- ・ファンドについて：広報がいきわたっていないのに書類が多い。活動奨励金のように書類を少なくしてファンド利用について告知してもらうほうが効果的かなと思った（伊丹）
→社会貢献版活動奨励金はセンターとも協議し始めた。（白木）

【7】広報 報告

a. 年間計画進捗状況報告（ブランディング、HUMANO等） 発表者：横倉広報幹事

HUMANO

- ・校正ツールの紹介
- ・宣伝広告の結果、Facebook1日200回、1週間455回の再生、ML含めて900人にリーチ。シェア拡散協力を。
- ・HUMANOvol.8 1月発行への協力を。

ブランディングプロジェクト

- ・進む方向について：推進会議でも共有したい。
- ・Miro の紹介
- ・IYEO 会員の共感を生む HP の作成。

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・特になし。

質問・意見（要約・抜粋）

- ・HUMANO vol.8 の協力について：愛知・奈良ブロックイベント、事業同窓会（伊丹）

→事業担当幹事には依頼済み（小島）

- ・広報誌 HUMANO、各ブロックイベント実行委員会のインタビューや会員おたよりなど、内容とっても充実している。ぜひご覧いただきたい。（工藤）

<https://www.iyeo.or.jp/about-us/member-page/publication/>

- ・Miro 閲覧専用リンク（横倉）

https://miro.com/app/board/uXjVPdx3pdo=?share_link_id=454903822564

【8】その他

- ・特になし

※認識違いによる記載及び質問は、IYEO 事務局(secretariat@iyeo.or.jp)まで問合せください。

以上